

・服部家について

かの有名な服部半蔵の血を継いでいる、忍者(スパイ)一族。

その正体は明かされていないが、現代では企業やコミュニティに潜入をして、情報を売り捌いていた…がっ！祖母がとてつもない天然で、その血を濃く継承してしまった父、その息子の渚は身体能力のスペックは高いが、頭が天然、お馬鹿さんになってしまった。

・父の存在について

服部小太郎

日本の超大企業(とうかさんの親の会社)

に潜入するも、2ヶ月くらいで正体がバレた。

しかし純粋ゆえになぜかスパイだが会社の利益のためにたくさん働いてくれるため、正体が発覚したあとは秘書として使えることになった。(子会社の経営も任されてる。)

この時点では服部家のスパイ家業は終了している、冒頭時点で渚くんはそのことを知らされていない、かわいそう。

・挨拶の「こんにちは～！」

普通に朝だから、おはようね。

・女子校の会話内容について

タピオカとハンドスピナー、どこで調べたかは不明だが遅れてるどころかもう死語ですよどっちも。

・体育でバレそうになるところ

なんで懸念してるのに対策をしないのだろうか、会話を研究する前にもっとやることがあるのではないか。

・父上にメッセージに送ったところ

父上は既に正体がバレて、携帯を没収されていた。

ちなみにその携帯は冬佳さんが持っていたので、一応助けてくれた(泳がせた？)

・スレタイみたいになってしまったところ

渚くんはネット掲示板をよく使う、純粋？馬鹿なのでネットの知識を信じてしまうことも。

美容院にはマイシャンプーとマイリンスを持っていかなければいけないと思っている。

・浅川冬佳(あさかわとうか)

財閥のお嬢様。

幼少期のころからチヤホヤされ続けてきた。

大人、先生、同級生もみんなから丁寧に扱われたが、その本意は親の後ろ盾があるからであり、対等に会話ができない、ご機嫌とりばかりで自分を見てくれないことが何よりも辛かった。

そんなこともあり性格は擦れていった、そんなある日、邪な気持ちで近づいてきた大人に、「お父様に言って首にしてもらうから。」と適当に言い放った瞬間、青ざめ、謝罪してきた姿になぜかゾクゾクてしまい、そつから性癖が狂ってきた。

そりや渚くんなんかきたら壊したくなっちゃうよね、色々と。

・エピローグのとうかさん

最初は良いおもちゃが見つかったくらいの感覚だったが、世間知らずの渚くんは良い意味でフラットに接してくるため、初めて素で話せる友達が出来た感覚で内心はとても嬉しくなった。

またちやっかり女の子扱いもされるので半分落とされかけている。

・エピローグのなぎさくん

大変なことがあったあとだが、正直本人は嘘をついたり、演じるのが苦手なため、重荷が降りた気持ちで、安堵していた。

正直あんなことをされたためとうかさんのことは苦手だったが、口は悪いが気を遣ってくれたり、手助けをしてくれる姿みて、いまは好いている。

逆にあんなことがあったあとなので、不良猫効果が働いているのかも？

ちなみに王子様キャラを演じるのはほぼ素に近いから、もうそれ演じてなくない？
実質高い声でいつも通り喋ってるだけ。

・バレないの？

今のところバレてない、そもそも女子校という先入観がある以上、男かも？なんて疑うことはまずない、それが仲良くなってしまえば尚更である。

現実でも不祥事があった際、「大手企業だから～国だから～」と先入観が邪魔をして、全く気づかなかったなんてこともよっちゅうある。

けど、洞察力に優れた生徒がもしもいたら…無事隠し通せるといいね。

…とはいえ男でしょ？流石に無理が…とかいうやつ、今すぐリアル男の娘を調べろ。
まじで声も体も女の子の男の子が世の中にはいるから、俺はそれで脳を壊された。